

平成25年度事業報告
(平成25年4月1日から26年3月31日まで)

特定非営利活動法人 映像産業振興機構

1. 事業の報告

平成25年度の通常総会(6月27日開催)でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の報告につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

(1) 人材育成事業

① 短編映画作品製作による若手映画作家の育成 (ndjc2013)

文化庁 1億2000万円

在野の優れた若手映画作家の発掘と育成を目指して、本格的な映像制作技術と作家性を磨くために必要な知識や技術を継承するためのワークショップや製作実地研修を行うとともに作品発表の場を提供する本事業を「若手映画作家育成プロジェクト2013 (ndjc2013)」として実施いたしました。

8年目を迎えた本年度も、映像関連団体等の推薦を受けた有望な若手作家の中から15名がワークショップに参加し、さらにその中から5名が製作実地研修に参加。制作プロダクションの協力のもと、オリジナル脚本にて35mmフィルムで25分以上30分以内の短編映画を制作しました。

東京・京都・名古屋・九州で完成作品の合評上映会を行ったほか、昨年度に引き続き東京(角川シネマ新宿)、また今年度新たに京都(京都シネマ)にて特別興行を実施し、広く一般の方々に作品をご覧いただきました。これまでに完成した38作品についても上映機会を提供すべく活動しました。

これまでの参加作家の中から商業用長編映画デビューを果たした作家も出てきているところです(『チチを撮りに』中野量太監督〔ndjc2008〕、『ゆるせない、逢いたい』金井純一監督〔ndjc2009〕、『劇場版タイムスクープハンター 安土城最後の1日』中尾浩之監督〔ndjc2006〕など)。

- ② 京都映画・映像企画市 京都府 100万円
若手映画製作者（監督、プロデューサー等）を対象に京都府内での撮影を想定した作品、時代劇を中心とした歴史作品の企画を募集し、業界の第一線で活躍する監督やプロデューサー、関係者が応募作品を評価する企画ワークショップを9月にスタートし12月までに実施致しました。

- ③ 太秦クリエート支援拠点サポート事業 京都府 2千500万円
映画・映像産業振興の一環として、京都太秦地域内に映画・コンテンツ産業のクリエイターの人材育成、サポート事業を実施しました。またインキュベーション支援のためコンテンツ関係者のネットワークづくりを行うことを目的にオフィス内に多目的スペースを設けて、それを利用したセミナー等を開催いたしました。

- ④ ASEAN諸国における文化分野の専門家人材派遣調査の実施 文化庁 300万円
ポップカルチャー分野は、現在の日本文化を代表しており、クールジャパン推進会議において、海外発信、海外展開を行う上で、ポップカルチャーは牽引役として担う部分が大いといと指摘されております。
また、業界においては、海外展開を視野に入れつつ、国内のクリエイター人材を海外に派遣し、海外経験とあわせて交流を行うことによりネットワークを広げ、将来のビジネス機会とすることが要望されております。
また、日本の教育機関においては、海外からの留学生が恒常的にあることやASEAN諸国の教育機関から、講師派遣の要望や提携要請などが多く受けております。このような背景を踏まえ、国内外の企業及び教育機関に対して、現状分析をおこなうことを目的に、今回調査を実施致しました。

- ⑤ ASEAN諸国に対するポップカルチャー分野の専門家等派遣事業 文化庁600万円
成長著しいASEAN諸国に向けて、日本が強みを有するポップカルチャー分野を通じて日本文化の発信・交流の推進を図り、各国の文化の多様性を尊重しながら、相互理解を深め連携を強化することが、我が国の文化芸術、教育、更には文化産業分野の振興につながることであります。本年はその検証のためテスト的にシンガポールの教育機関で、アニメ、ゲームのセミナーを開催致しました。

⑥ 映像コンテンツ発信事業 京都府 610万円

京都映画企画市、クリエイターズラボ等で完成した作品を中心に、京都だけでなく、国内外に広く紹介し、京都コンテンツの普及を行いました。

(2) 内外の市場整備事業

① コンテンツ産業強化対策支援事業 経済産業省 5,200万円

コ・フェスタ(JAPAN国際コンテンツフェスティバル)2013

7回目の開催となったコ・フェスタ2013は、我が国独自のコンテンツ産業のさらなる成長と発展を見据え、国際的な販売戦略と人材育成に取り組みました。昨年8月から今年3月まで、実績のある17のオフィシャル・イベントと、個性ある11のパートナー・イベントが国内外で開催され、多くの海外バイヤーやメディアの関心を集めました。また、ここでは海外コンテンツ関係者への一元的な情報発信を行うとともに、業界横断的な日本コンテンツとの出会いの場を提供いたしました。加えて、海外での日本ブーム創出を図るべく、日本コンテンツのファンである留学生や海外在住の若年層を「コ・フェスタアンバサダー」として迎え、広く海外の消費者・バイヤーの「生の声」を集めてマーケティングを行い、ネットワークを構成することで、日本コンテンツ情報の拡散を図りました。

② 京都国際マンガ・アニメフェア(京まふ)2013 京都市399万円

コ・フェスタ2013のオフィシャル・イベントであるKYOTO CM EX 2013のアニメ・マンガ部門の統合フェアです。今年で2回目になる京都国際マンガ・アニメフェア(京まふ)が京都みやこめっせ(京都勧業館)他にて開催され、9月7日から8日までの2日間で、昨年の実績を大きく上回る31,800名の来場者を記録しました。本イベントは松谷理事長が実行委員長を務め、当機構では会期前日のプレオープンイベントとしてJ-LOP説明会と2コマのビジネスセミナーの企画運営を実施しました。また、海外広報及び記録映像制作を担当し、アジア、欧米メディアをターゲットにプレスリリースを配信、香港、台湾のTVニュース内で開催内容を紹介しました。さらに期間中に韓国放送(KBS)の記者を招聘し、会場内の様子などが特派員報告として韓国全土にて放送されました。

③ ロケスポット京都データベース構築事業 京都府 100万円

映画・映像製作者向けに、ロケ地情報を一元的に発信し、ロケ地のポータルサイトとしてWEBサイトを構築し、本年度はサイト維持管理を実施致しました。

④ コンテンツポータルサイト（JAPACON）の運営

運営協議会会費 720万円 CODA受託事業費 850万円

昨年に引き続き本年度もCODA（一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構）より、知的財産権ワーキング・グループ等侵害対策強化事業（知的財産権侵害対策強化事業）の一部調査事業を受託し、見本市における海外バイヤーへのヒアリング調査、コ・フェスタアンバサダーを活用したヒアリング調査を行いました。また、本年度は、「ジャパン・コンテンツ ローカライズ&プロモーション支援助成金」（J-LOP）のコンテンツのデータベースとして、JAPACONが採用され、J-LOPの支援を受けたコンテンツをJAPACONサイトおよびSNS（facebook、Twitter）にて、海外バイヤーや日本ファン向けに発信作業を実施致しました。

⑤ 海外展開等促進事業 経済産業省・総務省 約155億円
経済産業省・総務省の補助を受け、基金を造成し「ジャパン・コンテンツ ローカライズ&プロモーション支援助成金」（J-LOP）事業を2013年3月19日より公募開始しました。2014年3月31日までに3,019件の申請があり、1,858件の案件が採択されています。以下、2014年3月現在までのトピックスとなります。

1) 説明会・個別相談会の実施

本助成金事業への理解を深めて頂けるよう、一般説明会を毎月定期的（2回～4回）に、開催する以外に、個別事業者の各種相談会、サービスデスクなども開設。また、各ジャンルの業界団体やJETRO、経団連などの各種団体、また海外イベントの出展説明会（JAPAN EXPO、HYPER JAPANなど）においてもJ-LOPの紹介を実施。また各ジャンル別の具体的なJ-LOP支援事例の紹介を説明会やウェブサイト等にて広く伝達しました。

※2014年3月末時点、説明会開催回数：70回（地方開催5回）／参加社数：2,492社／参加人数：3,717人

2) 定期的な要件緩和の実施

本助成金をより有効に活用して頂けるよう、各業界団体・所管官庁を含め、外部有識者による審査委員会で審議検討し、要件の緩和を定期的に行いました。（2014年4月1日実施分も含め、過去5回の要件緩和を実施済）

- 3) 助成金電子申請システムを8月末より導入
エントリーをよりスムーズに事業者が行えるよう、電子申請システムを導入しました。又、そのシステム化により、審査業務も効率化され、エントリー処理スピードが向上いたしました。
- 4) JAPACON をコンテンツデータベースとして採用・登録を開始
JAPACON (2006年よりコンテンツ・ポータル運営協議会が非営利で運営をしているポータルサイト/<http://www.japancontent.jp/>) を本助成金の支援を受けた事業のデータベースとして採用。採択された全ての案件はデータベースに登録され、JAPACON を通じて海外に発信される仕組みを作り、事業者のコンテンツ登録も10月より開始しました。
- 5) J-LOP 事業 1年間延長の決定
J-LOP 事業の1年間延長を2014年1月に公表。(延長後交付決定期限：2015年3月末) 助成金支払期限：2015年12月末
- 6) 体制強化
2014年3月末時点、VPO 兼任者(2人)及びアルバイト(3人) 含め32人体制。(2013年12月16日：事務局次長 榎田寿文 着任)
(a) 審査事務チーム・経理検査チームの増員
申請件数増加に伴う審査事務業務・経理検査事務の増大に対応するため、スタッフを増員しました。
(b) コンサルティング・マッチング機能強化のための部門の設置。
延長措置に伴い、より本助成金の目的である「日本ブーム創出」を高めるため、申請案件のコンサルティング・マッチング機能に特化した部門(助成促進部門)を設置しました。

(3) 自主事業

- ① メディア・コンテンツ業界就職セミナー 120万円
毎年自主事業として実施致しております「メディア・映像業界就職セミナー」を本年度も会員企業様の参加を中心として下記日程で開催致しました。
開催日程
東京(文京学院大学) 12月15日(日)、21日(土)、22日(日)
京都(京都烏丸コンベンションホール) 12月7日(土)、8日(日)
仙台(せんだいメディアテーク) 1月11日(土)
福岡(TKP天神シティーセンターM-4) 1月18日(土)

② プロの仕事 カンファレンス

就職活動前に、コンテンツ業界志望外の学生も含めて業界説明だけでなく、仕事をフォーカスしてリアルな職業に興味をもってもらいエントリー学生の掘り起こしを行うために開催しました。

開催日：9月28日(土)、29日(日)

場所：青山学院大学

参加企業：9社

③ 第二期「映像プロデューサー育成実験事業」

昨年の青山学院大学での開催に引続き、改訂実験授業を、8月29日から31日の3日間、および合評会を9月21日に、城西国際大学紀尾井町キャンパスをお借りして実施いたしました。現在、さらにカリキュラムのエッセンスを抽出すべく、検証を行っております。

④ KOCCA（韓国コンテンツ振興院）との業務提携

平成22年度にスタートしたKOCCA主催の「日韓コンテンツビジネスフォーラム」が今年度も開催され、引き続き運営協力を行いました。

第21回 2013年9月30日(月)「韓国漫画制作集団「Artlim media」の事業現状と日本展開」

第22回 2013年11月27日(水)「CJE&M JAPANの放送・映画ビジネスの現状と戦略」

第23回 2013年12月20日(水)「ゲームヴィルジャパンの事業現状と戦略」

第24回 2014年2月13日(木)「ぴあの韓流ビジネスの現状と戦略」

⑤ 映画「しもつかれガール」製作請負

250万円

栃木市青年会議所2013年を母体とした「とちぎ市民映画製作実行委員会」による栃木市PR短編映画製作を管理、プロデュースいたしました。地方発の映画企画製作をサポートするテストケースとなり、同時にndjc出身監督に創作の場を提供できました。今後はJFC（ジャパン・フィルムコミッション）とも連携し、アピールしております。

《作品概要》監督：遠山浩司（ndjc2009）

主演：谷村美月、徳永えり

撮影：10月6日から11日（栃木市） 完成：11月上旬

公開：11月23日國學院大学栃木学園教育センター（栃木市青年会議所55周年イベント）

(4) 組織運営

① 会員

(a) 入会

読賣テレビ放送株式会社、東映ラボテック株式会社、株式会社大広、株式会社インジェスター

(b) 退会

株式会社フォーライフミュージックエンタテイメント、株式会社テイチクエンタテイメント、片倉工業株式会社、

(c) 現在の状況

- ・会員数：法人会員 87社 賛助会員 13社 個人会員 9人
- ・会費入金額 44,320,000円

② 通常総会、理事会、幹事理事会

(a) 総会

・平成25年6月27日に通常総会を開催し、平成24年度の事業報告・会計報告、平成25年度の事業計画・予算、役員を選退任について決議いただきました。

(b) 理事会

・平成25年4月11日に開催し、J-LOP受託に伴う組織変更につきまして、決議いただきました。報告事項として、V.I.P.O商標侵害の報告と役員を選退任を行いました。

・平成25年6月13日に開催し、通常総会の審議事項について決議いただきました。

・平成25年11月28日に開催し、理事の選退任・幹事理事選退任の決議と平成25年度事業中間報告をいたしました。

(c) 幹事理事会

・平成25年4月11日に開催し平成24年度事業・会計の当期概況の報告を行いました。

・平成25年5月13日に開催し昨年度末より受託したJ-LOP事業の進捗状況を報告致しました。

・平成25年9月17日に開催し昨年度末より受託したJ-LOP事業の進捗状況を報告致しました。

・平成25年11月28日に開催し平成25年度事業途中経過について、J-LOP事業の進捗状況、V.I.P.O会員入会の件を報告致しました。

③ 政策検討委員会

ビジネスインキュベーション分科会

第1回 4月15日、第2回 5月23日、第3回 6月20日、
第4回 7月21日、第5回 8月21日、第6回 9月17日、
第7回 10月31日、第8回 11月11日、第9回 12月16日、
第10回 1月20日、第11回 2月14日、第12回 3月26日
にて、第二期「映像プロデューサー育成実験授業」の実施（8月29日、
30日、31日、9月21日、於：城西国際大学）やそのパッケージ化（電
子書籍）を含めて、検討を行ってます。

④ 会員交流会

平成25年6月27日に当機構会員・役員、関係省庁（内閣官房知的財産
戦略推進事務局、総務省、外務省、文化庁、経済産業省・観光庁）関係団
体・企業の皆様をお招きして交流会を開催し多数のご参加を頂きました。
本会では同日に行われた通常総会のご報告、新体制のご紹介をするととも
にご出席の皆様の交流を深めていただきました。

⑤ 会員向けセミナー

本年、会員向けのサービスの充実の一貫として、以下のセミナーを関係諸
団体のご配慮およびV I P O共催により、実施しております。特に第一回
セミナー後、海外番組販売に携わっている複数の事業者との間で、クール
ジャパン以降の新しい番組販売戦略やコンテンツの海外展開について、継
続的な勉強会を続けてます。

第一回「メガメディアの海外番組販売」

報告者：輪座克彦OBE（BBCワールド・ジャパン／フリーマントルメ
ディア・インターナショナル）

日 時：2013年6月28日（金）於 青山学院大学
（公財）情報通信学会と共催

第二回「奈良橋陽子による特別講演 ハリウッド流 国際コミュニケーション」

日 時：2013年7月6日（土）於 青山学院講堂 ユナイテッド・
パフォーマーズ・スタジオと共催

第三回「インドネシアにおける日本コンテンツ展開事業報告」

日 時：2014年3月31日（月）於 V I P O会議室

⑥ 広報活動

(a) 「V I P O年間活動報告2012」の発行

「V I P O年間活動報告2012」を5月20日付にて発行し、総会、会員交流会等で配布しました。その後、事業・広報活動等で活用致しました。

(b) ホームページの運営

ホームページにおいて、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載しました。

(c) 会員へのメール配信

V I P Oの活動や会員各社の情報などを発信致しました。

以上